

# 多文化共生保育交流会を開催しました。



## 講演会レポート

NGO神戸外国人救援ネット 武田真由美さんに『多文化保育園の取り組み紹介～多様性を認め合う保育をめざして～』と題して、自らが多文化保育園の設立と運営に携わってこられた経験から、保育現場で活かせる活動や教材などを具体的に紹介しつつ講演していただきました。

### 多文化保育

- ➡ 一人ひとりの子どもの『その子らしさ』を育てる保育
- ➡ 対象は外国籍の子どもだけでなく、すべての子どもたち

多文化保育で大切なことは、すべての子どもたちがその子らしくあり、自分に自信を持てるよう自尊感情を育てる保育、またお互いの違いを認め合い尊重しあう心を育てる保育、それは私たちが日頃から大切にしてきた人権保育につながるのだと受けとめました。

また、アンケートで事前にお聞きしていた、多文化保育に関する各園の工夫や悩みなどに対しても、武田さんからコメントをいただきました。日頃の悩みを解くきっかけになった、あるいは、新しい気づきがあったという方も多かったようです。

## 多文化共生保育交流会、アンケートから見てきたこと

- ・ **職員の意識** …… 保育士をはじめ、職員集団が「いろいろな子どもたちがいて楽しい」と思えること、多様であることが当たり前だという見方になれることが大切。
- ・ **子どもの立場にたって** …… 『自分ってこんなすてきなところがあるよ』『自分が大好き』と思えるよう、一人ひとりが自信をもって輝ける活動が園やクラスの中にあふれていることが大切。違う文化の中でも輝けるように工夫することが大事だと思います。
- ・ **仲間づくり** …… クラスの中で大事にみていきたい子を中心に置き、友だち同士が認め合い、わかり合い、つながっていける仲間をつくっていくことが大切。ひとりが周りの見方や考え方に合わせるのではなく、ひとりの意見を大事にできる仲間になれることが大事だと思います。
- ・ **保護者とのコミュニケーション** …… 保護者の願いを知り、互いに話し合い、受け入れ合いながら、進めていくことが大切。言葉が通じなくても、親の思いを知る努力をしていきたいです。

私たちは、取り組みを進める中で、このように少人数であるがゆえに馴染めない現状や周りとの違いがあることで交わりにくい状況は「多文化」に限ったことではなく、すべての子どもたち、保育園の課題ではないかという視点にたどりつきました。

すべての子どもと保護者が大切にされ、つながることのできる関係づくりのために、このリーフレットを考えるきっかけにしてください。

2009年11月13日(金)三重県人権センターにおいて多文化共生保育交流会が開催されました。会場には日々の保育に役立つ参考になるものと考え、各園で使用している翻訳絵本や遊びの資料などを展示したり、日頃の取り組みや保育の様子を掲示したりして、参加者の皆さんに見ていただきました。また、保育現場で役立つ遊び歌の紹介もあり、参加者全員で歌ったり踊ったりしました。

その後は5グループに分かれて、和気あいあいとした雰囲気の中、交流会が行われました。今回の交流会では、各園での取り組みの意見交換が活発に行われ、保育をうける子どもたちだけでなく、保育士も元気になるヒントがたくさん得られる充実した交流会となりました。

### ●お寄せいただいた感想より●

- ・ とても参考になりました。同じ現場で働いているという気持ちからもパワーを頂いたし、もっと頑張ってみようという勇気を頂きました。
- ・ いろんな所でいろんな取り組みがされているんだと感じました。(日頃は少数派というイメージが強いので)保育士だけでなく、子どもや保護者もこういう集まれる場があるといいな、と感じました。

今回の交流会が、多文化から、みんなで人権について考え合うひとつのきっかけになればいいなと考えています。

## ことば

- ・ 通訳とのチームワーク
- ・ おたよりにルビをつけている
- ・ 絵や写真で生活しやすいように表示している
- ・ 絵本に訳をつけて置いている

訳を入れた  
掲示物

訳付けた  
絵本

## 食事

- ・ 各国の料理を献立に取り入れている
- ・ 料理を通して多文化交流をしている
- ・ 弁当がどんなものかなど、伝えたいことを写真を使って説明している

弁当について  
のおしらせ

各園で  
こんな工夫  
しているよ!

## 生活・遊び

- ・ あいさつや物の名前など、母語を遊びの中に取り入れている
- ・ 各国の遊びや歌、玩具を保育に取り入れる

各国の歌を  
みんなで  
楽しむ

## 保護者

- ・ 母語の冊子を手元に置き、簡単な言葉を使ってコミュニケーションを図る
- ・ 交流会を持ち、保護者同士のつながりを作る

保護者  
交流会

「共に生きる」

誰とでも「共に生きる」ということは至難です。文化や言語などが異なるため、あるいは「障がい」のために、しばらくは一緒にいることができても、小さなトラブルがあると、避けたり、反発したりしてしまうこともあります。そういう日常の中で私たちは生きています。

保育のなかで、そういう事態をなるべく少なくし、あっても乗り越えていくために、人権保育の実践が展開されてきました。しかし、研究者などは「障がい」「多文化」「家族のあり方」などのいずれかを主な専門として、別々に語っていることが多かったと思います。

しかし、実際には、ひとつの園の人権課題がひとつだけと考えるのは、非現実的です。ときには、外国籍の子に障がいの診断名がついていて、しかも、ひとり親家庭であることもあります。実践者にとっては総合的に考える方が自然で、その良さが今回の取り組みにも現れていると思います。

人権を守るために歩んできた歴史をふまえての知識と経験を、すべての人権課題に取り組むための基礎として活かす、市町を超えた実践者の支え合いが、これからもっと拡がることを願っています。

戸田 有一(大阪教育大学)

ホームページのご案内

今後、社団法人三重県人権教育研究協議会のホームページ内でもプロジェクト会議の様子や内容などを、掲載していく予定です。

ぜひ、みなさんも三重県人教のホームページをチェックしてみてください! よろしくお祈りします。



ホームページアドレス

<http://www2.ocn.ne.jp/~sandokyo/>

三重県人権保育推進支援事業

2010年3月 発行

三重県健康福祉部こども局こども家庭室

多文化共生から人権保育を考える

今回のプロジェクトでは、ことばや文化が違う多国籍の子どもたちと共に生活していく保育について考えてきました。

三重県にも現在、いろいろな国籍の人が住んでいます。戦前から日本に住んでいる人々だけではなく、戦後、そしてごく最近、日本に住み働く人も増えてきました。在日韓国朝鮮人の人をはじめ、ここ20年では、南米からの日系の人、フィリピンの人も多く日本で働くようになってきました。

特に、1990年に行われた「出入国管理及び難民認定法」(入管法)の改正、施行がきっかけとなり、日系人労働者が増えてきました。最近では、看護、介護の需要に伴い、アジア圏の人々もたくさん日本で働いています。

外国人労働者に頼らなければ経済を支えていくことができない日本の現状からすると、今後もこうした傾向が続くことでしょう。

さらに日本人との国際結婚の割合は、約20組に1組といわれるほどに増加しているの、国籍を問わず両親あるいはどちらかが日本語を母語としない子どもたちの数も増えています。

こうした背景により、現在は一部の保育所にしかない外国籍児(外国にルーツをもつ子ども)たちもいろいろな保育所に増えることと思います。

そんな中、ことばが違う保育所等で生活しなければならない子どもたちの中には、その環境に慣れず、不安定になってしまう子もいます。また、外国籍児の割合が多い園では、日本国籍児との間に見えない壁ができてしまうこともあります。

このリーフレットを通して、多文化共生保育(ことばや文化の違いの中で共に生きる保育)の取り組みから見てきたことをなげかけたいと思います。このなげかけ、皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

外国籍の子や保護者が困っていることは…

